

熊本市中部浄化センター A 消化槽建設工事が竣工 (九州地方の下水処理場で鋼板製消化槽が初稼働)

当社は、2018年3月に熊本市から「中部浄化センター A 消化槽建設工事 (7001工区)」を受注し、建設を進めてきました。このたび試運転調整をへて、2019年9月30日に竣工し、同10月1日より本格稼働しています。

本工事は、中部浄化センター内（熊本市西区）において、1961年に供用開始したコンクリート製消化槽の更新として行われ、下水処理場向けとしては九州地方で初めて鋼板製消化槽の採用となりました。

下水汚泥の嫌気性消化は、汚泥減量化を主要な目的として用いられてきましたが、消化の過程で発生する消化ガスはカーボンニュートラルなクリーンエネルギーであり、ガス発電等に有効活用することにより、化石燃料の節減と同時にCO₂削減に貢献できます。

鋼板製消化槽は、従来のコンクリート製消化槽と比べて、建設工期の短縮や事業計画変更への柔軟な対応が可能です。また、運転支援機能による消化槽内の「見える化」により、運転・維持管理性を向上しました。

当社は今後もこれまで培ってきた技術を駆使し、循環型社会の形成や環境保全に貢献してまいります。

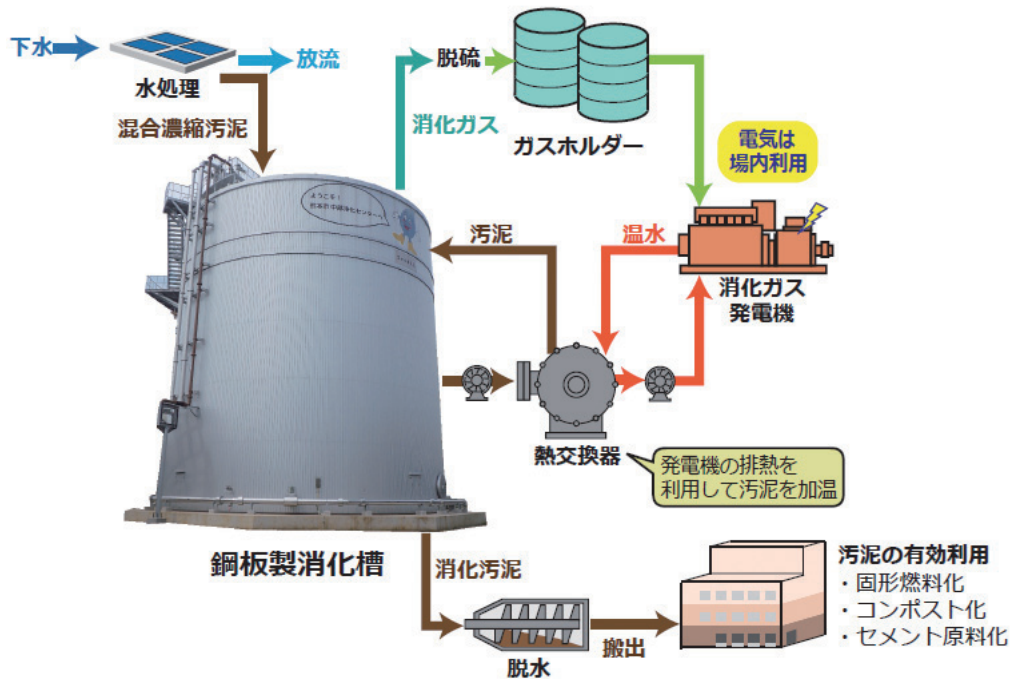
【工事の概要】

- ①客 先 名：熊本市
- ②工 事 名：中部浄化センター A 消化槽建設工事 (7001工区)
- ③工 期：2018年3月1日～2019年9月30日
- ④施 設 概 要：鋼板製消化槽，加温設備 一式



機械棟・鋼板製消化槽 外観写真

【システムフロー図】



【鋼板製消化槽の仕様，特長】

| | |
|--|---|
| <p>特長</p> <p>①センサー類を駆使した運転状況可視化や、弊社独自の堆積物低減技術などの運転支援機能により、適切な消化反応を維持</p> <p>②20年以上の耐用年数</p> <p>③低動力攪拌機の採用により、維持管理コストを縮減可能</p> <p>仕様</p> <p>型式：鋼板製消化タンク 方式：中温中濃度方式 高さ：17.4m(胴部) 直径：16.5m(内径) 槽容量：3,200m³</p> | <p>発泡検知器 異常発泡を検知し、自動で水噴霧を行います。</p> <p>サンプルピース膜厚測定 防食塗装状況を確認します。</p> <p>覗き窓 攪拌状況や異常発泡を確認します。</p> <p>温度計 消化槽内の環境や槽内の汚泥温度を監視します。</p> <p>板厚測定 外部から槽板厚を測定可能。</p> <p>堆積物測定 外部から堆積物の高さを測定可能。</p> |
|--|---|